

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	2875200996		
法人名	特定非営利活動法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホームほおずき神戸ニツ屋		
所在地	兵庫県神戸市西区ニツ屋2-15-6 (電話) 078-921-4081		
評価機関名	福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年12月26日	評価確定日	2009年1月16日

【情報提供票より】(平成20年12月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	10.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(12月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6	要介護2	3		
要介護3	4	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84.3 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長谷川医院
---------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・事業所の周囲は一戸建て住宅であり、地域には自治会がなく、新興住宅地といった趣きである。事業所の前は広場公園であり、ホーム内からボール遊びなどを行っている子どもたちの姿を見ることができる。ホーム2階のリハビリ室をふれあい図書館と名付け、絵本や漫画などを置いているので、時々子どもたちが遊びに立ち寄ることがある。地域との交流の機会が少なくなっているため、子どもたちの訪問を活かして地域交流の場を広げるよう考えてほしい。法人全体の理念を事業所の理念として実践しているが、「ホスピタリティ」という項目が追加され、声にならないニーズに応え衛生面の改善も行われた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)	・利用者の希望を第一にしたケアを目指してきた。しかし、健康面、清潔面などの配慮が必要な場合もあり、利用者とは話し合い納得と理解の上でケアの質が改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)	・職員全員が自己評価項目を分担し、意見を出し合いながら記入したものを管理者と主任がまとめた。職員としては、日頃慣れて気にしていなかった介護の本質を考え直す機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)	・運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。事業所から運営状況報告等を行っているが、最近では出席者が固定し少人数となっている。家族、民生委員や地域代表等に積極的に出席を働きかけ、地域住民との交流の場を広げる努力を期待したい。また討議内容を記録し、運営に活かすために積み上げていってほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)	・医療加算についての説明のために4月に家族交流会を行ったが、その際に広く意見や意向などを伺った。運営推進会議には最近では家族の出席がないので、定期的な連絡時や来訪時に意見や不満などを聞き取るように働きかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)	・以前は地域との交流があったが、職員不足となり、子どもたちが遊びに立ち寄ってくれる程度で交流の機会が少なくなっている。利用者が地域の一員として安心して生活していく支援のため、運営推進会議等を活性化して地域との連携を深める方法を検討してほしい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・新たに「ホスピタリティー」の項目を追加した法人全体の理念を、事業所の理念として実践している。		・地域密着型サービスの役割を考えた事業所独自の理念の検討を改めてお願いしたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・新任研修時には必ず理念について学習する。介護現場では職員は理念を意識しケアを行っているが、具体的に意見を交わしながら確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・以前は地域交流が実現できていたが、職員不足となり、子どもたちが立ち寄ってくれる程度で交流の機会が少なくなっていた。職員体制が整ったので、今後は地域に溶け込むために積極的に地域活動に参加したいと考えている。		・利用者が地域の一員として生活していくため、地域との付き合いについて運営推進会議を活性化させて検討してほしい。時々遊びに来る子どもたちを通して、地域交流の場を広げていく工夫をされては如何か。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員全員が自己評価項目を分担し、意見を出し合いながら記入したものを管理者と主任がまとめた。職員としては、日頃慣れて気にしていなかった介護の本質を、立ち止まって考え直す機会となった。		・自己評価を通じて気付いたことなどを積極的な意見として持ち寄り、ケアの実践に活かしてほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。事業所から運営状況報告等を行っている。最近では出席者が少ない。</p>		<p>・運営推進会議に家族、民生委員や地域代表等の出席を積極的に働きかけ、検討内容や経過を記録し、サービス向上のために活かしていく会議として活性化してほしい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・ケースワーカーとは、生活保護の利用者に関して定期的に連絡を取っている。市担当者とは積極的な連携とはなっていない。</p>		<p>・市担当者に積極的に働きかけて連携を強化してほしい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族への連絡方法・頻度等は、入所時に希望を聞いて個別に決めている。来訪時には利用者の日々の様子を報告し、また体調が変化したときは受診結果などをその都度連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族交流会を4月に開催したが、家族会は組織されていない。職員体制が整った現在、家族が伝えきれない思いや事業所に聞こえてこない意見などを積極的に汲み取り、運営等に役立てたいと考えている。</p>		<p>・行事の参加時など定期的に家族同士で気楽に話し合える場を設け、本音の意見が出せる仕組みづくりを考えてほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・新管理者が事業所立ち上げ時からのメンバーであり、職員が働きやすい環境づくりに努力している。職員不足によりサービス対応が手薄になった時期もあったが、職員体制を整え、サービス面で利用者への影響がないよう配慮に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人全体で年間を通じ、法人理念・介護・マナー・契約事項等の項目についてスキルアップ試験を実施している。内部研修は今年はできていないが、介護現場では主任が個別に指導している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人全体のグループホーム13ヶ所とは電話で相談をし合っている。地域のグループホームとの交流は少ない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前に施設見学、体験利用、自宅訪問などを行い、本人とのコミュニケーションを重ね、家族の話を聞き、信頼関係を築くように心がけている。入所当初は利用者が不安を感じるので、1対1で向き合う配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・調理の下準備や味付け、畑の耕し方や種のまき方など、日々の生活の中で利用者から教わる事が多くある。職員は利用者とともに生活するパートナーとして接するよう心掛けている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者に選択肢を提示して選んでもらうなど、利用者の希望に沿うよう努めている。意思疎通の困難な利用者には、過去の生活歴をもとに家族と相談しながら検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者毎の担当者が本人と話し合い、意向を尊重して原案を作成する。申し送り時等で原案を職員間で検討し、家族の意見も参考に介護計画を立てている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・6ヶ月毎の定期見直しを目指している。利用者の状況が変化したときはその都度計画を見直すようにしている。また介護保険認定更新時や変更時には計画を見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・併設のデイサービスの大浴槽の利用、レクリエーションへの参加、送迎車でのドライブや医療連携体制を活かして、家族と相談しながら入院回避に取り組んでいる。ホーム2階のリハビリ室に絵本や漫画等を置いてあり、時々近所の子どもたちが立ち寄っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・協力医（内科）が定期的に往診する。他の科は協力医と相談して受診している。今までのかかりつけ医や希望する医療機関の受診も支援されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・契約時グループホームの限界について話している。具体的な対応が必要になった時点で本人にとってどこで過ごすのがいいか家族の意向を確認して対応している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・利用者、職員に対し個人情報保護の説明と徹底を図り、失禁や他の失敗への配慮、プライベートな空間としての居室の認識、言葉遣い等に利用者の尊厳を損ねないように心掛けている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・決まり事は作らず、一人ひとりの長年のペースを大事にしている。放任するのではなく、声にならないニーズに応え、信頼関係のもと、衛生面の改善にも取り組んでいる。一人で買い物に行ったり、一ヶ月に一回自宅へ職員が同行しゆっくり過ごす支援もしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食材はまとめ買いしている。献立は利用者 と相談しその都度考え職員が調理している。 食堂に炊飯ジャーが置かれ、自分でご飯を入 れられるようになっている。職員も一緒に食 事する。男性職員が調理していると利用者が 手伝ってくれる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・回数、時間は特に決めていない。職員の都合で、 時間を変更してもらうこともある。個々のシャ ンプー、ボディソープを用意、冬至にゆず湯 をする等季節に合わせた楽しみも準備されて いる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・畑、洗濯、洗濯物の取り込みやたたみ、調理の手伝い等利用者の役割がある。習慣になっている散歩やラジオ体操、玄関に来る移動パン屋を楽しみにしている利用者もいる。新聞を取っている人もいる。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・日常的に近くの公園へ散歩に行っている。行き慣れた美容室やかかりつけ医の受診の支援もしているが、希望者は決まってい、個々の希望に合わせた外出は支援されていない。</p>		<p>・定期的に季節のドライブに行っているが、希望を出せない利用者の外出のニーズに応える取り組みを行いたいと事業所では検討している。</p>
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・日中は施錠していない。家族に鍵をかけないケアについて説明し納得してもらっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・避難経路の確認だけ行い、今年は訓練はしていない。</p>		<p>・消防署の指導のもと定期的な避難訓練、利用者一人ひとりに合った避難マニュアル作成、近隣住民への協力要請等早急な対応が求められる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事量、水分摂取量、尿量は必要に応じ記録している。コーヒー、紅茶、お茶をリビングに置いて水分摂取の機会を多く取っている。カロリー計算は行っておらず、食事量で調整し医師と連携を取るようしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共有スペースに生花を飾っている。建物の前に新たに畑や花壇を作って、利用者と一緒に野菜や花作りをしたいと計画している。利用者が外出したときの写真や懐かしいスターの写真・ポスターが貼ってあって居心地よい工夫がなされている。</p>		<p>・食事時間にテーブルの側に簾と塵取りが置きっぱなしになっていたのは残念に感じた。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・家での習慣を大切にして、ベッド、箆笥等家と同じ配置にしている。じゅうたんや畳を敷くこともでき、自宅に近い環境への配慮に努めている。</p>		

 は、重点項目。